

○蒲生光男委員長 2番、浅野敏明委員。

○2番 浅野敏明委員 ありがとうございます。
地域再生計画の策定が必要だということになりますので、地域再生計画の事業メニューと合致する事業が該当になるのか、その辺だけちょっと伺います。

○蒲生光男委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 このたびの新型交付金は地域再生計画の認定が大前提でございますので、地域再生計画を必ずつくることが必要になります。それで、今現在は、このたび長井市のほうで地域再生計画をつくったわけですが、その中で例えば来年度、交付金を申請するのか、新たな取り組みが必要であれば、新たな地域再生計画をつくって申請に臨むということも今のところ検討する状態でございますが、ただ、新型交付金の制度設計のまだ詳しい内容が出ておりませんので、出た段階で早急に対応したいと思っておりますが、ただ、総合戦略を踏まえた地域再生計画を事前につくっておりますので、他の団体よりは若干有利になるんじゃないかというふうに考えております。以上でございます。

○蒲生光男委員長 2番、浅野敏明委員。

○2番 浅野敏明委員 ありがとうございます。
概要がわかりましたら、ぜひご説明をお願いしたいと思います。

以上で質問を終わります。

鈴木富美子委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位2番、議席番号6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 よろしくお願ひします。
1番に上げております地域スポーツクラブについて伺います。

市長の施政方針の中に市民ひとりスポーツの推進を上げておられましたが、健康寿命を引き上げる意味で大いに推進したいものです。その中に、地域スポーツクラブとして花のまちスポーツクラブの話をされましたが、長井市には西根ときめきスポーツクラブもあることは市長はご存じだと思います。この2つのスポーツクラブは、市長としてどのように捉えていらっしゃるのでしょうか。伺います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 答えたいします。

鈴木委員がおっしゃるように、長井市内には2つの総合型地域スポーツクラブがあって、経過としては、長井市内でいわゆる体協が地域として残っていたのが西根に残っていたということで、先行してモデルケースとして西根のときめきスポーツクラブができたというふうに認識しております。そして、その後、これを市全体に広げた総合型の地域スポーツクラブをつくらうということで、花のまちスポーツクラブができたわけですが、その際に、本来であれば一本化するのが私は望ましいとは思ったんですけれども、これはスポーツ団体の皆様の考え方、また、ときめきスポーツクラブはその後、単独でやっていって、お互い連携してやっていくものというふうに私は見ておりますが、残念ながら、なかなか教育委員会の中での議論がどうなってるのか。あるいは、ときめきスポーツクラブのほうと、五十嵐会長さんとか。あと、花スポのほうは現在、totoの支援によって運営費などいろいろな取り組みはできておりますが、ときめきスポーツクラブのほうは全く単独で、しかも、西根地区の全戸数が会員とされて成り立ってるクラブなものですから、そこをどういうふうにして、今後、いい形で市民ひとりスポーツというのを実現するため、やっていったらいいか、ぜひ私どものほうも話し合いなどを一緒にやりながら、方向性を探っていきたいと

いうふうに考えてるところでございます。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 そうですね、なかなか西根の人も一生懸命頑張っておりますが、花スポとやっぱり合体していく方向に私もいいのではないかと思います、やはりいろいろな問題がございますので、いい方向にいつてほしいと思いますが、とりあえずときめきスポーツクラブでも今現在、定期的にエンジョイ吹き矢とか健美操などを一生懸命やっておりますので、市民の皆さんにも少しでも多く参加していただいて、スポーツクラブがあるんだという再認識をこの場でさせていただいて、健康寿命を引き上げる役に立っていただきたいと思います。

続きましての質問ですが、平成26年度に675万3,000円の支援事業補助金が花のまちスポーツクラブで使われておりますが、この補助金、totoの助成はあと2年で支援事業補助金がなくなると思います。2年後のクラブの自立に向けて、先ほどの質問とかぶるところがあると思いますが、どのように考えておられるのか、教育長にお伺いいたします。

○蒲生光男委員長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 委員ご指摘のように、花のまちスポーツクラブにおいては、平成25年の設立時からスポーツ振興くじ助成金、totoの支援を受けてございます。総合型地域スポーツクラブマネジャー設置支援というのと、それから、総合型地域スポーツクラブ自立支援、この2つの支援を受けている、補助金を受けているところでございます。

ご指摘のように、支援期間が5年ということになっておりますので、平成29年度まで、来年度、28年度、29年度の2カ年ということになります。その間に軌道に乗ったクラブについては、条件を整えば、さらに3年間の支援が受けられるという制度がございます。その条件といたしましては、3年間延長できる条件として、1つ

は、NPO法人のような法人格を取得すること。それから、クラブマネジャーの経験が3年以上、そういう3年以上の経験があるクラブマネジャーが存在しているということ。それから、自己財源が50%以上であること。平成28年度決算でそこがクリアにならないといけない。花のまちスポーツクラブにおいては、平成27年度中にこの条件をクリアするための体制づくりに今、着手してございまして、臨時総会なども開いて規約改正を行ったと聞いております。会員区分を変更して、会員としてクラブ運営にかかわる方と利用だけの会員、そんな改正をしております。そのことが会員拡大、あるいは収入増につながっていけば、安定したクラブとしてやっていけるのではないかなって期待しているところでございます。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 前向きに進んでるとお聞きして、安心しましたが、西根ときめきスポーツクラブはもとの西根体育協会を母体にしてるわけですが、長井市の体育協会と花スポとのかかわりというのはどのように考えておられるのでしょうか。教育長にお伺いいたします。

○蒲生光男委員長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 設立時の考え方から変わっていないというふうに認識しておりますが、花のまちスポーツクラブについては、長井市体育協会が運営母体となってクラブを運営していくというふうなことからスタートしてございます。それに沿って実際、クラブの会長、副会長には体育協会の会長、副会長が就任しておりますし、また、体育協会の多くの役員の方がクラブの理事として運営にかかわっていただいているというふうに認識しております。また、各種スポーツ教室等の事業には、体育協会の加盟団体の協力も得ながら、講師の派遣などもお願いしているところでございます。今後とも体育協会の皆さんが運営母体となって自立できるクラブにな

るように、他の方々も協力しながら、支えていくってということが自立には大事になってくるのかなというふうに思っております。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 わかりました。ぜひ皆さんで検討なされて、自立の方向に向けて頑張っていたきたいと思います。

続きまして、2番目に入らせていただきます。

パークゴルフ場の整備について伺いいたします。

6月の定例会にもお話をさせていただきましたが、パークゴルフ場のトイレの件はどうでしょうか。残念ながら、平成28年度当初予算には計上されていませんでした。今のトイレは、足の悪い方、年齢の高い方には本当に不便です。また、県外、市外からの愛好者が来場されたとき、どうでしょうか。パークゴルフ場は飯豊町、白鷹町、小国町、高畠町にもあります。そして、ことしは川西町にもできる予定です。ほかのパークゴルフ場は、お風呂や食堂などが隣接しています。長井には何もありませんが、会員の温かい心に愛好者は集まってきているのだと思います。市長もご存じだと思いますが、市長杯の大会もあり、遠く県外からも参加されています。せめてトイレ、事務所を整備して、交流人口をふやす手だてにしていってはどうでしょうか。

市長にお伺いいたします。

○蒲生光男委員長 内容重治市長。

○内容重治市長 お答えいたします。

長井市のパークゴルフ場につきましては、運営をいただいております指定管理者として、野川クラブが会員の皆様と一緒に芝の管理も含めたよりよい運営をなさっているということで、ほかの例えば白鷹町、飯豊町、川西町さんなどと比べても決して遜色がない、多くの人がパークゴルフをしにいらっしゃるということで、これは野川クラブの皆さんに敬意を表したいというふうに思っています。ほかのところは、例えば

温泉施設とか宿泊施設の中に隣接したところにパークゴルフ場があるということで、ロケーション的にはすばらしいんですが、長井のパークゴルフ場については、野川の河川敷の県管轄の河川敷の中に、県のご協力を得て、芝を整備いただいて、そこに私ども長井市のほうで水道施設等々などを工事をさせていただいて、これをオープンしたというふうな経過がございます。委員おっしゃるように、もう遠くは宮城県、福島県からもいらっしゃってますんで、そういった方々に対して、会員の皆さんはもちろんでしょうけども、トイレが仮設トイレということで、非常に使いにくいと。また、足の悪い方とか高齢者の方については洋式のトイレというものも必要というふうに思われますので、何とか28年度の当初予算に、河川敷の中はバイオトイレですと、これ設置できるんですけども、バイオトイレですと、相当高額な、数千万円、1,000万円ではできないですね。数千万円ということでございましたので、これは諦めまして、隣接した清水町の堤防沿いに用地を確保できる市の土地がございましたんで、そこにトイレをということで計上したかったんですが、残念ながら、当初予算がご承知のとおり非常に厳しくて、当初では上げられなかったというのが実態でございます。大変申しわけなく思っております。

関係団体と今後、検討していく旨の回答を、昨年6月に鈴木委員からも提言いただいて以降、そういうふうにお答えしておりましたので、さまざまな対応策を考える中で、基本的には野川クラブに対応いたこうというようなことで、野川クラブさんのほうからのご同意いただきました。その上で、市としてどのぐらいお手伝いできるかを判断すること、このことを念頭に置いて考えたところでございます。

現状の仮設トイレについては、野川クラブで努力されて、割安でリースされているということでございまして、増設は考えておられないよ

うでございます。新しい仮設トイレに変更することは支出がふえるわけでございますので、その分を賄える利用量の増と、利用者の増と、あと交流人口の増が見込めれば、取り組んでいただけるといようなお考えでございました。新年度が指定管理2年目の最終年でございますので、今後、どういった指定管理をなさっていくのか。今までは指定管理料ゼロでお願いしておったんですが、再来年、29年度以降ですね、また何とかしてお願いしたいというふうに思っておりますが、その際には指定管理料としてやはり必要な金額を計上するような形でしていきたいと思っておりますし、トイレについても、私どもとしても、先ほど申し上げました隣接する清水町のところに何とかトイレを開設するように予算の計上を図れるように努力していきたいというふうに思っているところでございます。以上です。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 回答ありがとうございます。今おっしゃいました河川のそと、清水町に、除雪、排雪の場所になってところが9月の議会で宇津木正紀議員にお答えしてたようですが、場所はあるようですので、財源は厳しいというお話でしたので、財源として宝くじ助成を活用できるような方法はないでしょうか。市長にお伺いします。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

鈴木委員おっしゃるように、totoを使ってスポーツ施設の整備というのは可能なんですけど、これもある程度計画を立てて、翌年度にすぐということかどうかはケースによるわけですけども、ただ、トイレについては、スポーツ施設と一体として整備する場合は可能だと思いますが、トイレだけを設置することに対してのtotoの活用は残念ながら難しいようでございます。したがって、これはやっぱり単独で予算を組まざる

を得ないのかなというふうに思っているところでございます。今回のパークゴルフ場以外にも、お手洗いをぜひというのは何カ所かございまして、これらについてはやはり単独でせざるを得ないと思っておりますが、一気に全てとはいきませんが、やっぱり1年に1カ所ずつぐらい、二、三年かけて要望をされているトイレについては必要なところでございますので、ぜひこれらは単独事業でも予算計上させていただいて、議会からもお認めいただければなというふうに思っているところでございます。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 ぜひトイレだけは。ますます高齢化になっていきますので、健康寿命を延ばす意味でも、あそこに皆さん集まってらっしゃいますので、ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

続きまして、3番目のやまがた長井観光局についてお伺いいたしたいと思います。

2月の産業・建設常任委員会の協議会におきまして説明をいただきましたやまがた長井観光局運営補助金611万6,000円と、やまがた長井観光局誘客強化事業補助金200万円について、商工観光課長にお伺いいたします。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 委員のご質問にお答えをいたします。

観光局のほうのまず運営費ということで収入の分を見込んでおりますが、611万6,000円ということで予定をしているものでございます。事業収入ということにつきましては、予算を立てる段階で、旅行商品の企画料というようなことでおおむね350万円程度の収入を見込んでるところでございます。そのほか、長井市からの補助金と、今度、会員ということで、普通会员なり、賛助会員ということで会費収入を見込んでおりますので、合わせますとおおむね1,235万

円というような歳入予算、それに伴うさまざまな事業費ということで、同額の1,235万円ということで見込んであるものでございます。これにつきましては、200万円のバス補助についても入っている部分でございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

続きまして、あやめR e p o 2月15日号で、やまがた長井観光局の紹介記事がありました。それには、やまがた長井観光局は観光地域づくりプラットフォームやDMO、つまり地域のさまざまな分野の人たちが連携し、集客交流事業を企画、運営し、地域にお金が落ちる仕組みをつくるとともに、観光地域づくりを進めるための調整機能を果たす組織と言われる組織との説明が載っておりました。私は、長井市の観光振興に大いに寄与するものと期待しております。

そこでお伺いいたします。やまがた長井観光局は旅行商品の総合窓口の機能を持つわけですが、どのような組織で何人の体制になるのでしょうか。商工観光課長にお伺いいたします。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 やまがた長井観光局につきましては、個人の商店でありましたり、各組合、団体、そして商工会議所や観光協会、そして行政も参加するという地域一体型の組織というふうに考えてございます。事務局の業務につきましては、置賜地域地場産業振興センターのほうに事務委任をするということで計画をしているものでございます。置賜地域地場産業振興センターにつきましては、観光交流推進部というセクションにおきまして、この観光局の業務を担っていくこととしております。28年度からは置賜地域地場産業振興センターと観光協会の事務局員が融合するということによりまして、現観光協会の職員につきましても、この事業推進のグループの一員ということで携わっていた

だく予定をしているところでございます。したがって、置賜地域地場産業振興センターの観光交流推進部と現在の観光協会の職員あわせまして、単純に常時ということではございませんが、マックスで7名から8名体制は組めるのではないかとこのように考えているところでございます。以上です。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 観光交流センターが開設されれば、運営されるという説明を今、いただきましたが、それまではタスの2階にある置賜地域地場産業振興センターで運営されるということでのいいのでしょうか。商工観光課長、お願いいたします。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 委員おっしゃいますように、平成29年の4月に観光交流センターをオープンさせるという予定になってございまして、このセンターにおきまして観光に係る総合案内窓口といった機能を持たせるということにしておりますので、やまがた長井観光局の事務的な事業につきましては、平成29年度についてはこの施設の中でしていきたいというふうに思っておりますが、平成28年度につきましては、現在の置賜地域地場産業振興センターの中で業務に携わるというようなことで考えてございます。以上です。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 わかりました。そうしますと、観光協会も今までと同じように28年度は行うわけでしょうか。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 観光協会のスペースにつきましては、今、置賜地域地場産業振興センターと分かれて1階のすぐ入って右側にございますので、そこから2階に上がるということではなくて、28年度は1階の同じスペースで業務に当たるというようなことで想定をしているところ

でございます。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。
次に行きます。

やまがた長井観光局誘客強化事業補助金の200万円は、バスに対しての補助金として1台当たり5万円で、40台分とこの間、説明を受けましたが、観光バスに対しての補助と理解していいのでしょうか。また、この誘客強化事業は、市内への観光客の誘客についてどこへどのように行うのでしょうか。経済効果はどれぐらいあると見込んでおられますか。商工観光課長にお伺いいたします。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 ご質問のとおり、旅行会社、もしくはバス会社のほうへ観光バスへの補助ということで考えてるものでございます。この補助金の事業につきましては、より多くの方々に長井市へ訪れていただくための誘客推進ということを目的としたものでございまして、おおむね1台当たり5万円ということで、40人で計算しますと、全体で40台で1,600人ぐらいの観光客が長井にお越しいただけるものというふうに見込んでるところでございます。

補助事業の詳細についてでございますが、これから要綱の整備をするわけでございますけれども、今現在考えてる中身ということでは、市内の最低でも3カ所を必ず訪れていただくというようなことで補助対象の要件を満たすという想定で計画をしているところでございます。長井市内での買い物促進でありましたり、観光スポットでの消費などが見込まれるわけでございますが、一般的に言われております日帰り客の1人当たりの消費額というのは大体6,000円程度というふうに言われておりますので、委員がおっしゃいました経済効果というような部分につきましてはですが、直接的な経済効果といいますと、1,600人で6,000円ということですので、

おおむね960万円程度というふうになるかというふうに思っております。以上です。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。
いろいろやってみて、いろんなコースをこれからぜひ進めていっていただきたいと思います。
次の質問に入らせていただきます。

「広報ながい」の1月1日号で長井の旅の名称、ブランド名を募集しておりましたが、どれぐらいの応募があったのでしょうか。ブランド名の発表はいつ行うのか。どのように決定していくのか。あるいは決定したのでしょうか。商工観光課長にお伺いいたします。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 旅行商品のブランド名を募集して、1月1日号で周知をしたわけでございますが、このブランド名につきましては、募集開始をしてから1月25日を締め切りといたしておりまして、その間、215件の応募をいただきました。この応募された名称の選考につきましては、観光地域づくりプラットフォームの設立準備会の検討委員会、最初、1月27日に開催をしておりますが、こちらで1次審査を行いまして絞り込みを行ったところでございます。その後、2次審査ということで、2月16日に開催しました幹事会で具体的な投票を行いまして、候補を選定するという方法をとっております。なお、名称につきましては、3月22日にやまがた長井観光局の設立総会を予定してございますので、その席で発表するというようなことで今、考えているところでございます。以上です。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 すばらしい名前を期待しております。楽しみにしております。ありがとうございます。

続きまして、質問させていただきます。

あやめR e p oの2月15日号で、あやめR e p o旅行商品のアイデアを募集しておられまし

たが、いいアイデアの応募はあったのでしょうか。やまがた長井観光局は4月から旅行商品を販売すると理解していますので、旅行商品はできてると思います。どんな企画商品なのでしょう。商工観光課長にお伺いいたします。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 あやめR e p o で呼びかけました旅行商品でございますが、アイデア、今のところ応募はございませんでした。ただ、市民の方々から問い合わせを何件かいただきまして、その内容につきましては、自分もこの旅行の企画、あるいは観光局に参加ができるのかというようなご質問を電話で頂戴したところでございます。4月以降の企画商品につきましては、桜の時期を皮切りにいたしまして、山形鉄道や旅行会社とのタイアップ企画商品を4種類ほど計画してございます。そのうちの3種類につきましては、まちなかに誘導するというような形の企画を考えているところでございます。一例をまず紹介いたしますと、山形鉄道お花見列車とあら町商店街協力のまちなか散策や置賜さくら回廊とあわせたワンコインバスといった企画を考えているところでございます。また、滞在交流型、もしくは着地型といわれておりますまちあるきや体験観光、そういったものの企画につきましては、設立準備会の着地型旅行商品造成部会という部会を設置して、これまで検討してまいりました。そこでおおむね50ぐらいの提案がございましたので、そういった提案のほかに、雇用創造協議会のほうでもモニターツアーなどを実施してきましたので、そちらも商品化ということできながら、順次販売をしていく予定で考えてございます。以上です。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 この長井観光局にはやっぱり市民も期待してるところでありますので、ぜひ多くの市民の意見をお聞きしながら、いい方向に進んでいって、頑張っていってほしいと

思います。私からは以上です。ありがとうございました。

内谷邦彦委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位3番、議席番号4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 産業・建設常任委員会協議会にて商工観光課より説明がありました長井市観光協会事業2,743万8,000円について、産業・建設常任委員会協議会でも質問いたしましたが、再度確認のため、通告書に従い、質問しますので、回答よろしくお伺いいたします。

観光まつり業務、宣伝業務、観光物産振興業務、入園料徴収業務などを委託し、イベントなどの企画、立案、実施を行う長井市観光協会への委託料について商工観光課、川村課長に伺います。

長井市観光協会の資料及び予算資料によりますと、あやめ回廊、白つつじまつり、ながい黒獅子まつり、あやめまつり、あやめ賑わい市、長井おどり大パレード、ながい水まつり、ながい雪灯り回廊まつり、宣伝、誘客事業、以上の事業費用合計で平成26年決算資料より2,301万6,000円、平成27年度予算資料より2,483万9,000円、平成26年度比108%増、平成28年度予算資料より2,538万4,000円、27年度比102%増、ここで教えていただきたいのですが、26年決算から27年予算が各業務に関し、101%から129%まで予算額が上がっておりますが、上げた理由について教えてください。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 長井市観光協会に委託しております各事業につきましては、平成26年度から平成27年度にかけて予算額がアップした主な変更点についてご説明をさせていただきます。